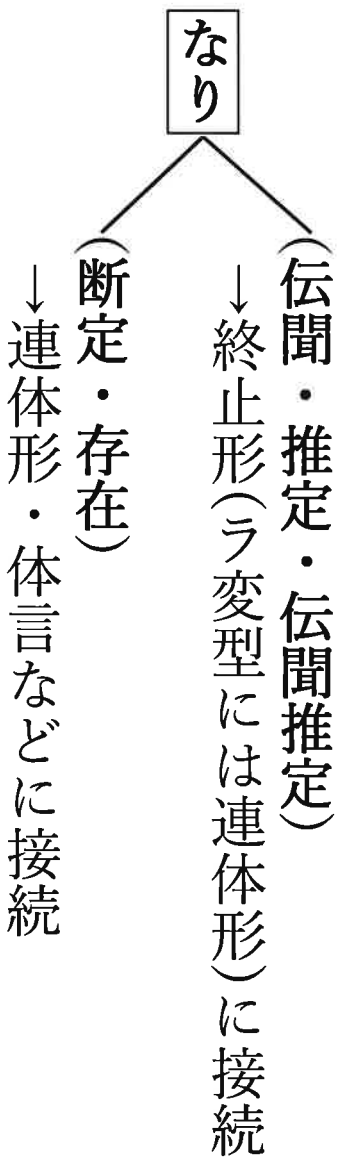


# 助動詞(暗記表) ★これをカンペキに暗記しろよ!

サ未 四已	連体形 「の」「が」	体言	連体形 体言等	終止形						連用形						未然形						接続 語											
				なり	めり	らむ	まじ	らし	べし	けむ	たし	たり	ぬ	つ	けり	き	まほし	まし	むず	む	じ		ず	しむ	さす	す	らる	る					
り	ごとし	たり	なり	なり	めり	らむ	まじ	らし	べし	けむ	たし	たり	ぬ	つ	けり	き	まほし	まし	むず	む	じ	ず	しむ	さす	す	らる	る						
ら	(ごとか)	たら	なら	○	○	○	まじから	○	べから	○	たから	たら	な	て	(けら)	せ	まほしから	(まほしく)	○	○	○	ざら	(ず)	しめ	させ	せ	られ	れ					
り	ごとか	と たり	に なり	(なり)	(めり)	○	まじかり	○	べかり	○	たかり	たく	たり	に	て	○	まほしかり	まほしく	○	○	○	ざり	ず	しめ	させ	せ	られ	れ					
り	ごとし	たり	なり	なり	めり	らむ	○	まじ	らし	○	べし	けむ	○	たし	たり	ぬ	つ	けり	き	○	まほし	まし	むず	む	じ	○	ず	しむ	さす	す	らる	る	
る	ごとき	たる	なる	なる	める	らむ	まじかる	まじき	らし	○	べかる	けむ	たかる	たき	たる	ぬる	つる	ける	し	○	まほしかる	まほしき	まし	むずる	む	じ	ざる	ぬ	しむる	さする	する	らるる	るる
れ	○	たれ	なれ	なれ	めれ	らめ	○	まじけれ	らし	○	べけれ	けめ	○	たけれ	たれ	ぬれ	つれ	けれ	しか	○	まほしけれ	(ましか)	むずれ	め	じ	ざれ	ね	しむれ	さすれ	すれ	らるれ	るれ	
れ	○	たれ	なれ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	たれ	ね	てよ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ざれ	○	しめよ	させよ	せよ	られよ	れよ	
存続・完了	比況	断定	断定・存在	伝聞・推定・伝聞推定	婉曲推量	現在推量	打消推量・打消意志・ 打消当然・不可能・ 禁止	確実推量	当然・適当・命令	過去推量	希望	存続・完了	強意・完了	過去伝聞・過去詠嘆	体験過去	希望	反実仮想・推量・ ためらい	婉曲・意志・推量・ 適当・仮定・勧誘	打消推量・打消意志	打消			使役・尊敬			自発・可能	受身・尊敬・ 自発・可能	意味					

# 助動詞なり(2種類)



なり
○
(なり)
なり
なる
なれ
○
伝聞・推定・ 伝聞推定

- ① 伝聞：(トカイウ・ソウダ)  
② 推定：(ラシイ・ヨウダ)

※ 基本的には「伝聞推定」で覚えておこう

なり
なら
なり に
なり
なる
なれ
なれ
断定・存在

- ① 断定：(デアアル)  
② 存在：(ニアル・ニイル)

※ 「なり」の上は連体形・体言だが副詞・助詞「て」「と」「ば」などにも接続する。副詞・助詞は活用しない。活用しない語は体言相当ととらえよう。

## 〈例〉

- ・ かくなり↓「かく」は指示副詞。「なり」は断定
- ・ 入ればなりけり↓「ば」は接続助詞。「なり」は断定

# 「なり」の識別

① 「なり」の上が終止形(ラ変型は連体形)だったら  
伝聞推定の助動詞

② 「なり」の上が連体形・体言だったら断定の助動詞

・男もす<sup>終止</sup>なる<sup>伝推</sup>日記といふものを女も<sup>サ変・連用</sup>して<sup>連体</sup>みむとて<sup>断定</sup>する<sup>なり</sup>  
(「男も書くとかいう日記というものを女(の私も)書いて  
みようと思っ)てかくのである。)

③ 連用形+なり↓動詞(〜ニナル)  
「になり」「ずなり」「となり」「なりて」の「なり」  
は動詞(〜ニナル)

④ 「性質・状態+なり」↓形容動詞

⑤ 「―げなり」↓形容動詞

⑥ 「ななり」「あなり」「べかなり」「ざなり」の  
「なり」は伝聞推定↓音便形の下にある「なり」は  
伝聞推定

⑦ 「なめり」「ななり」の「な」は断定(なるめり↓なんめり  
↓なめり)

## 《ハイレベル》

(四段・上一段・ラ変型活用語)は終止・連体が同形なので伝推か断定か区別できない。そこで前後から意味を決めないといけないが、ここはとりあえず三つ覚えよう！

○ (終止・連体同形) + **なる** + 体言 → 伝聞推定

・ 籠手とかやいふ<sup>同形 伝推</sup>**なる**物を(「いふ」は四段活用動詞で終止形も連体形も「いふ」)

・ 心恥づかしき人住む<sup>同形 伝推</sup>**なる**所にこそあなれ(「住む」は四段活用動詞で、終止形も連体形も「住む」)

○ 〈音・声〉—— **なり** → 伝聞推定

・ しばしありて、先たかう追う声すれば、殿、参らせ

同形 伝推  
給ふ**なり**「とて

○ ぞ・なむ・や・か——同形**なる** → 伝聞推定(「こそ同形なれ」の「なれ」も伝推)

・ 文箱に入れてありと**なむ**<sup>同形 伝推</sup>いふ**なる**

cf. 形容詞の補助活用の連体形 + なり → 伝聞推定

・ 美しかる**なり**(伝推) ⇄ 美しき**なり**(断定)

※「なり」を伝聞と推定に分けるといふ問題はあまり出ないが、もし出たらこう覚えてくれ。

「なり」の前後の事件(音・声)が近ければ推定・遠ければ伝聞

・秋の野に人待つ虫の声す **なり** 推定

↓近くで虫の声がしている ↓近い

(||秋の野に人を待つという松虫の声がしているようだ)

・かかる人こそ昔物語もす **なれ** 伝聞と思ひ出でらる

↓このような人||身近でない・「昔物語」ともある。  
ようするに誰かの噂を伝え聞いているわけ ↓遠い

(||このような人こそが昔物語をするということが思い  
出されて)